

# TRAVEL IN YABUKI

---

THE THREE  
GREATEST FRONTIER  
OF JAPAN

日本三大開拓地「矢吹町」

vol.02

お米がつなぐ、矢吹の未来。



 矢吹町

## CONTENTS

03 特集「田んぼ」は可能性の発見の場  
大桃美代子さん・  
長島孝行教授インタビュー

05 開拓精神が育んだ「矢吹米」

水源を得る半世紀の戦い  
開拓民達が育んだ土と米

09 農家さんに「矢吹の米作り」を  
聞きました!

「手間がかからても安全な米作り」菅野雄一さん  
「天才肌ではないので一生懸命しかない」高久美秋さん  
「若者の顔が見えるような田んぼを作りたい」角田誠義さん  
「地域に必要とされるのはうれしい」藤井貴之さん

13 矢吹「米」のおいしいグルメスポット

14 「矢吹米」購入方法



## 矢吹町について

矢吹町は東北と関東の境に位置する県南部にあり、町の面積の半分以上を農地が占める田園の美しい町。昭和31年に農業用水ダム(羽鳥ダム)の完成で、長年の懸案だった農業水利が整備され、東北の冷涼な気候と関東の温暖な気候との寒暖の差や、那須岳から吹き降ろす風、日照の良さも手伝い、稲作・畑作・酪農など豊かな農地へと変貌している。

元プロ野球選手の中畠清氏の出身地で、2015年には、名誉町民の称号を授与されている。

矢吹米の  
おいしいひみつ、  
探してみよう!



仲良くなるほど、友人を知りたくなるように。  
ゆっくり、のんびりと。私の見つけた町を。

お米がつなぐ物語。  
またひとつ、楽しみが増えた。  
また会えるかな。

町で話したおじいちゃんが言ってたっけ、「矢吹の田んぼは、先人の苦労の結晶」って。  
ふと田んぼ眺めると、キラキラした笑顔が見れた。

そして、新米を堪能できるお店を探してみようかな。  
またフラつとやって来た、矢吹町。  
そういえば秋、黄金の田園が広がる。  
稲刈り体験でもしてみようかな。  
またフラつとやって来た、矢吹町。

お米がつなぐ、  
矢吹の未来。

矢吹の米を愛する「田んぼの学校」の校長と特別講師に“矢吹の魅力”を聞いてみました。

# 田んぼは可能性の発見の場

## 各世代が矢吹を再発見できる場

### 親戚のような

### コミュニティの大切さ



田んぼの学校はお陰様で四年目を迎えました。今年も稻刈りの時期に矢吹町の子どもたちと一緒に再会できてうれしいです。毎年、矢吹の子ってすごいなと感心させられます。田んぼの学校で得た経験をちゃんと覚えている。しかも元気いっぱいに答えてくれるんです。田んぼの学校とかもしれませんね。カブトエビのようにね(笑)田んぼの学校の大きな強みは、大人たちと子どもたちの間に大学生がいることだと思います。気軽に話せるお兄さんやお姉さんに生物のこと教えてもらうのは、子どもたちにとって雰囲気の違う楽しみなことだと思うんです。

田んぼの学校は授業なんだけど、親戚の集まりみたいな雰囲気があります。そう思うと、昔の農村のように各世代がいる生活のコミュニティって、大切なんだなって思います。



タレント  
「田んぼの学校」校長  
**大桃美代子**さん

### 核になる人がいる地域力

田んぼの学校のような試みは、田植え・稻刈り以外にも沢山の準備があるので、続けていくことは大変なんです。矢吹町は町長をはじめ地元の方々など、学校を核として下支えてくれる人がいます。地域力が強い土地ですね。外から来る人にやさしいのも、開拓の土地だからですかね。

私は熊本地震で被害が大きかった益城町に行つたのですが、まだ震災の爪痕が残っている状況でした。そんな中で住民の方に言われたんです。「福島がどのように復興するか注目しています」と。熊本は未来の希望として福島を見ています。私は「絶対復興しますよ」と伝えています。だってここにその未来がありますもん。来年の田んぼの学校も、地域の幅広い世代が笑顔で出会える希望の場にしたいですね。



Agrit Museum Project



## 「田んぼの学校」とは?

稲作を通して矢吹の環境を子どもたちに伝え、カブトエビを使った有機農法を試作する場として、役場と矢吹原土地改良区、地元農家、東京農業大学が協力して運営する田んぼの学校。毎年六月に田植え、十月に稻刈りを行っており、矢吹町内の小学五年生、約100人が参加している。

2007年に東京農業大学の同級生だった長島教授へ野崎町長から「福島でのカブトエビ農法は可能か」という問い合わせからプロジェクトは始動。長島教授がテレビ番組で知り合い、新潟県で稲作をしている大桃美代子さんを校長に迎えスタート。大震災から二年を経て再始動し、今年で四年目。

田んぼの学校で定着を確認!

### 学生達にとって 人生の授業の場

### 田んぼで定着を確認!

### 町出身のノーベル賞 受賞者がいるかも!?

私は子どもの頃にカブトエビに出会い、何で



かっこいい形なんだと感動したのが、研究に進むきっかけでした。この授業を通して、矢吹の子どもたちにも発見の感覚を味わってほしいなあと思っています。

田んぼで出会える生物は年々多くなっているので、生物が住みやすい環境になってしまっているんですね。矢吹での米作りは、厳しい取決めのあるJAS有機栽培の認定を受けている農家さんも多いと聞いています。カブトエビは環境に影響を与えない生物です。ゆくゆくは、有機栽培の一助になってくれればうれしいですね。これからは食や環境に深くかかわる生物化学が、もっと重要視されてくるでしょう。矢吹の子どもたちが研究の道へ進み、ノーベル賞受賞者が出てたら面白いじゃないですか。カブトエビの卵のように、子どもたちの可能性がいつか孵化するように、見守りたいです。

中にはコミュニケーションが苦手で、大人としゃべるのが怖いと言う子どももいます。でも、大学生がいることで、大人と子どもの橋渡しができるんです。学生も、矢吹や田んぼに関わるにつれ、幅広い年代の地元の方と関係を築くのが、楽しいと感じているのでしょうか。カブトエビの卵は、百年以上経つても孵化します。卵が長期間休眠することを「クリップトオシス」というのですが、春に学生が子ども達に教えていた事を今回覚えてくれていて、学生も驚いて喜んでいましたよ。

子どもたちにとって、学生は生物の先生かもしませんが、学生たちは田んぼで幅広い世代から人生の授業を受けているのです。この田んぼの土壤のよう、人が沢山関わることで人間関係も年々豊かになると嬉しいですね。



田んぼで定着を確認!

田んぼで定着を確認!

田んぼで定着を確認!

田んぼで定着を確認!

田んぼで定着を確認!

田んぼで定着を確認!

田んぼで定着を確認!



田んぼで定着を確認!

田んぼで定着を確認!

田んぼで定着を確認!

田んぼで定着を確認!

田んぼで定着を確認!

田んぼで定着を確認!

田んぼで定着を確認!



田んぼで定着を確認!

田んぼで定着を確認!

田んぼで定着を確認!

田んぼで定着を確認!

田んぼで定着を確認!

田んぼで定着を確認!

田んぼで定着を確認!



田んぼで定着を確認!

田んぼで定着を確認!

田んぼで定着を確認!

田んぼで定着を確認!

田んぼで定着を確認!

田んぼで定着を確認!

田んぼで定着を確認!



田んぼで定着を確認!

田んぼで定着を確認!

田んぼで定着を確認!

田んぼで定着を確認!

田んぼで定着を確認!

田んぼで定着を確認!

田んぼで定着を確認!



田んぼで定着を確認!

田んぼで定着を確認!

田んぼで定着を確認!

田んぼで定着を確認!

田んぼで定着を確認!

田んぼで定着を確認!

田んぼで定着を確認!



田んぼで定着を確認!

田んぼで定着を確認!

田んぼで定着を確認!

田んぼで定着を確認!

田んぼで定着を確認!

田んぼで定着を確認!

田んぼで定着を確認!



田んぼで定着を確認!

田んぼで定着を確認!

田んぼで定着を確認!

田んぼで定着を確認!

田んぼで定着を確認!

田んぼで定着を確認!

田んぼで定着を確認!



田んぼで定着を確認!

田んぼで定着を確認!

田んぼで定着を確認!

田んぼで定着を確認!

田んぼで定着を確認!

田んぼで定着を確認!

田んぼで定着を確認!



田んぼで定着を確認!

田んぼで定着を確認!

田んぼで定着を確認!

田んぼで定着を確認!

田んぼで定着を確認!

田んぼで定着を確認!

田んぼで定着を確認!



田んぼで定着を確認!

田んぼで定着を確認!

田んぼで定着を確認!

田んぼで定着を確認!

田んぼで定着を確認!

田んぼで定着を確認!

田んぼで定着を確認!



田んぼで定着を確認!

田んぼで定着を確認!

田んぼで定着を確認!

田んぼで定着を確認!

田んぼで定着を確認!

田んぼで定着を確認!

田んぼで定着を確認!



田んぼで定着を確認!

田んぼで定着を確認!

田んぼで定着を確認!

田んぼで定着を確認!

田んぼで定着を確認!

田んぼで定着を確認!

田んぼで定着を確認!



田んぼで定着を確認!

田んぼで定着を確認!

田んぼで定着を確認!

田んぼで定着を確認!

田んぼで定着を確認!

田んぼで定着を確認!

田んぼで定着を確認!



田んぼで定着を確認!

田んぼで定着を確認!

田んぼで定着を確認!

田んぼで定着を確認!

田んぼで定着を確認!

田んぼで定着を確認!

田んぼで定着を確認!



田んぼで定着を確認!

田んぼで定着を確認!

田んぼで定着を確認!

田んぼで定着を確認!

田んぼで定着を確認!

</

水源を得る半世紀の戦い



【星吉右衛門】

最初の建白書がとん挫すると、猪苗代湖を水源とする建白書を新たに提出。しかし計画が動き出すことはなかった。漆の植林や酪農、教育にも力を入れ、生涯町の発展に寄与した。

## 星吉右衛門の見た夢

そんな実り少ない矢吹の窮状を、幼い頃から見続けた男が立ち上がる。

江戸末期に矢吹町大和久の庄屋の息子として生を受けた星吉右衛門は、私財を投じて治水整備に尽力。水不足解消の決定打として、羽鳥村（現・天栄村）に流れる鶴沼川をせき止め、日本海に注ぐ水を逆に矢吹が原に流す「西水東流構想」の実現に邁進する。

## 半世紀の時を経て 構想は現実に



緻密な計画を盛り込んだ建白書を作成し県に申請するものの、その膨大な予算と御料地を利用する計画は、日の目を見ることがなく、吉右衛門は七十八歳（明治四十一年）の生涯を閉じた。

吉右衛門の死後もその意志は受け継がれ、矢吹住民の粘り強い働きかけにより、懸念だつた御料地の使用は、昭和九年に県への払い下げにより解消され、計画が始動する。

まずは開拓民の農業技術の習得のため県立修練農場が開設、また十六年には事業の心臓部である羽鳥ダムの建設が着工される。しかし第二次世界大戦の真っ只中、資金や資材不足で工事は停滞してしまった。

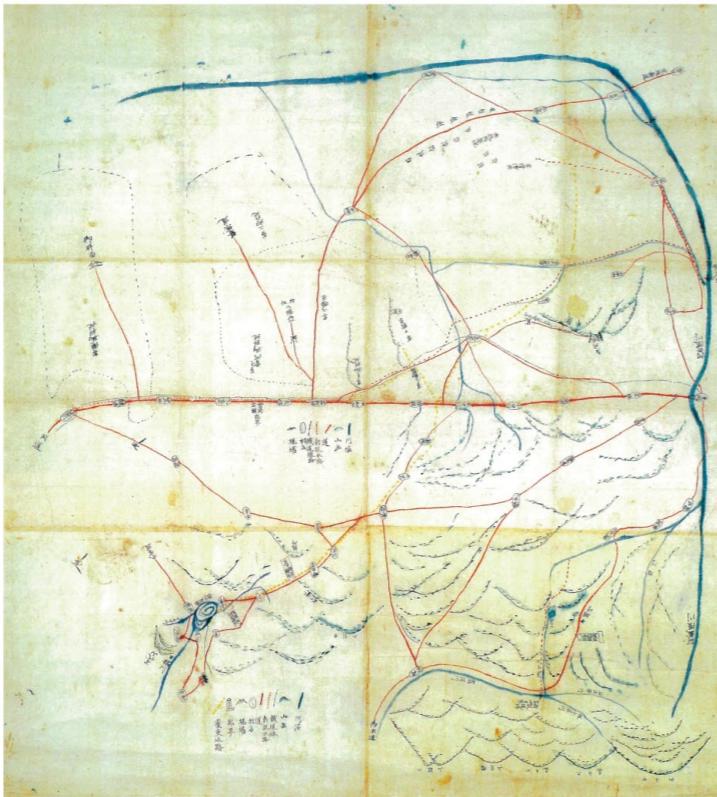
戦後には急務となつた食料増産に向けダム建設は再始動され、昭和三十年に羽鳥ダム、その水源を利用した「羽鳥疎水」の基幹工事がようやく完成。吉右衛門の構想は半世紀の年月を費やし現実のものとなる。こうして、広大な荒野に命の水が注がれることがとなる。

矢吹の民の念願だった米の栽培に不可欠な豊富な水は、こうして得ることとなつた。



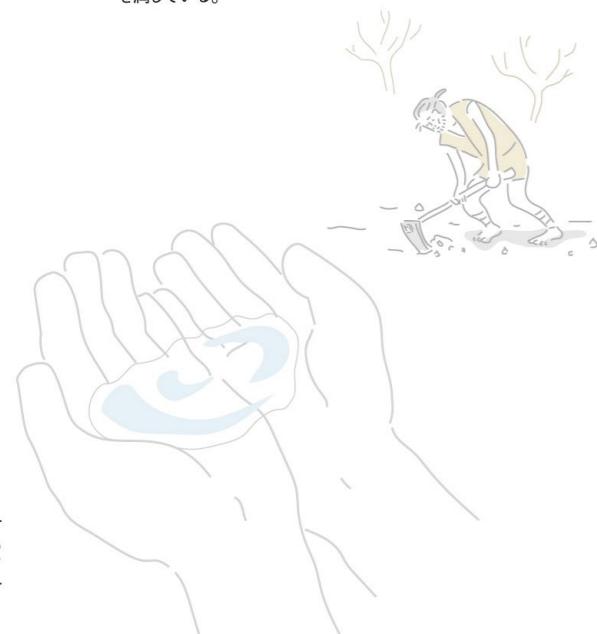
【羽鳥ダム工事】

羽鳥ダムは日本屈指の規模を誇り、矢吹町の他に旧大信村、泉崎村、鏡石町、須賀川市の1500ヘクタールの水田を潤している。



【建白書】

吉右衛門が私財を投じ測量などを行った建白書は、工期ごとの人夫の数や経費など縦密に計算されたもので、実効性が高いものだった。（矢吹町 星信家蔵）



## 豊潤な大地の恵み「矢吹の米」

その実りは矢吹生まれの  
男の願いから始まる



\ YABUKIMAI /

# 矢吹米

開拓精神が育んだ  
黄金色がどこまでも続く田園は矢吹の秋の風物詩だが、この光景は太平洋戦争後の昭和三十年代後半からの光景なのだ。

歴史をさかのぼると、矢吹町一帯は行方野へクタールにも及ぶ小松原だった。江戸時代には奥州・水戸街道分岐点の宿場町として発達。近代明治の時代になると、天皇の領地「御料地」として矢吹が原と呼ばれるようになり、地元の住民は、土地においてそれと踏み込めない時代が長く続く。

そんな広大な荒野は、有效地に農地として活用できない決定的な理由があった。慢性的な水不足だ。宮内省も開墾所を開設するなど農業利用を進めようとしたが根本的な水不足の改善が難しく、皇族周辺が楽しむ「御獵場」として、矢吹が原は留まり続けた。

## 【キジ狩り】

矢吹が原は、皇族周辺のキジ狩りを楽しむ場所「御獵場」として明治から大正の時代に使用された。日露戦争で活躍した東郷平八郎もキジ狩りを楽しんだ。



## 水源を得る 半世紀の戦い

動物の楽園から  
皇室の御獵場へ



# 開拓民達が 育んだ土と米

## 人力で荒野を 切り開く作業

念願の稻作に必要な農業用水の確保に目途がたつた昭和三十年代前半。しかし、そこからすぐに黄金色の実りを得たわけではない。それまでには、立ちふさがる難問にフロンティア精神で立ち向かう歴史があった。

羽鳥疎水の完成後の開墾事業は、耕作機械もなく、鍬を振るい木々を取り除く人力での作業が続く。県から食料は配給されたが、量が乏しく空腹の中で作業は進められた。開墾の苦労の中、米作りを目指す入植者を困惑させる大きな問題が立ちはだかる。

矢吹一帯に広がる「軽鬆土」の土壤だ。



【草炭】

矢吹の一部には、泥状の石炭「草炭」の土壤もあった。火を付けると燃焼することから五右衛門風呂などの燃料に使用されていたという。当然農業には向かない土地だ。

## 土壌・経済の 両輪を支えた畜産

矢吹一帯は、火山灰を主とした「軽鬆土」<sup>けいしよつど</sup>が広がる。乾燥すると舞い、保水力が低く、さらに稻作に必要な栄養素も乏しい土壤が、かなりの深さまで広がる土地だった。水田には、水が適度に漏れない土盤が必要になる。その土盤の上に栄養のある耕土を客土し、稻を発育させる。そのため、土地改良が急務だった。

そこで矢吹の風景のひとつである畜産が発達することになる。実は矢吹町は日本有数の子豚の产地で、最盛期には月三回のセリで一回ごとに三千頭が出荷されていた。保水力をつける粘土質の土壤と、豚などの家畜の排泄物を混ぜて有機質を含む土壤を水田に加えることにより、徐々に土地改良を行なった。

また畜産は、年一回の収穫でしか収入を得られない米農家にとって、経済的に大きな助けとなつた。豚の妊娠期間は約四ヶ月で、十頭ほどの子豚を出産する。子豚を売ることで、



## 入植者の フロンティア精神が今も

入植者の向上心も、現在の稻作には大きく影響している。昭和三十年代後半には各集落で、米の収量増産に向けた研究会が結成される。実例を挙げると、稻の収穫後に稻わらを細かく刻み土に鋪きこんで栄養とする作業も、わらの発酵を促進させる化学肥料の使用など、先進的な試みが全国に先駆けて行われた。

あまり知られていないが、矢吹町は県内有数規模の米の種糲を収穫する「種場」の産地である。かつては、自分の水田で収穫した米を種糲として使用していたが、病気にかかりやすく、世代を経ると品質も落ちる。そこで、コシヒカリなどの原種を種糲専用として丁寧に栽培して、全国の農家へ販売しているのだ。矢吹の米の美味しさは、種場が近隣にあり多くの農家がその品質を評価し、使用したことでも因としてあるようだ。

開拓民達が育んだ土と米



【入植者の家】

昭和35年頃の入植者の家屋。すきま風がひどく、吹雪の翌朝には枕元に雪が積もったという。



【福島県農業総合センター農業短期大学校】

校内には、北海道を思わせる広大な敷地に、田畠やビニールハウスの他に牛舎や豚舎、教習所顔負けのトラクター運転練習場などがある。



【種場】

矢吹の種場(種子センター)は、県下有数の規模を誇る。原種に近いコシヒカリの種糲がすぐ使える環境も、矢吹の米の美味しさの一因としてある。



【大池公園】

大池は水不足対応のため作られたため池のひとつ。現在でも町内には川から水を引いたため池が多く点在する。



【矢吹の田園】

日常水不足に悩まされていた矢吹だが、3つの川があるため水害は頻繁に起こった。旧田(昔からある田)は、そんな水害が頻繁に起こる集落に多く、肥沃な土壤が流れ込むため食味は良いとされてきた。

また、入植者の教育部門を担っていたのが、前ページで触れた「修練農場」である。この施設では、水稻のほかにも酒米や果樹、きのこ等も試験的に栽培され、矢吹の土地に合う作物の試行錯誤が行われていた。教育部門は現在も農業短期大学校として農業人を育てている。フロンティア精神が残してきた歴史は、古びることなく脈々と矢吹の米に受け継がれているのだ。

月々に収入を得ながら土地改良に尽力することができた。また牛では牛乳、二トドリでは卵と、肥料と経済の側面で畜産は矢吹の稻作には欠かせない要素のひとつだったのだ。



【子豚の畜産】

子豚の市場は最盛期に日3,000頭の取り扱いがあり、牛や鶏卵とともに、農家の重要な現金収入源だった。





1年休んだ田んぼを回復させるのは、大変だったよ。それよりも風評被害は、簡単なものじゃなかったね。才能のない俺は一生懸命やるしかないのよ。最後は…勘だね(笑)



高久さんの妻で、農業生産法人社長のひろ江さん。「夫の仕事の姿勢“だけ”は、本当に頭が下がります。夫のようにカラっとした3代の大家族で、賑やかにやっています」

天皇家に献上する米を作ったのは、震災1年後でした。え? 僕? って感じでびっくりでした。震災の年は米作りをあきらめたので、これから続ける勇気をもらいました。けどこの出来事を大々的にアピールして商売はしなかったんだ。何とか運を使い果たしそうな気がして。それよりも、自分に天才的な才能がないからこそ、いつも一生懸命やっているよ。それは言える。それしか俺にはできないもの。

毎年気候はバラバラ。それを読みながら米作りをするけど失敗ばかり。今度こそはと思っていてもやっぱり失敗ばかり、残念な人なんです(笑)出来事の大半はアピールして商売はしなかったんだ。何とか運を使い果たしそうな気がして。それよりも、自分に天才的な才能がないからこそ、いつも一生懸命やっているよ。それは言える。それしか俺にはできないもの。

## YABUKI FRONTIERS TALK 02

### 天才肌ではないので一生懸命しかない

**YABUKI FRONTIERS**  
高久 美秋さん

# Yoshiaki Takaku

## YABUKI FRONTIERS TALK /

農家さん4人に「矢吹の米作り」について話を聞いてみました!

## 手間がかからても安全な米作り

**YABUKI FRONTIERS**  
菅野 雄一さん

# Kanno Yuichi

**YABUKI FRONTIERS TALK 01**



この田んぼは、羽鳥疊水の水を使っているんです。ここ数年水不足で断水することが多いので、ボーリングで地下水をくみ上げる計画をしているんですよ。



そんな中でもアイガモ農法を続けているのは、この田んぼが有機JAS認定を受けているからです。

農家は、現在3軒、昔は20軒くらいいたんだけどね。アイガモが田んぼにいるのは、雑草が伸びる5月下旬～8月まで。実はけつこう短い期間なんだよね。その間も、カモが残った雑草は夏場に3回ほど人手でとるんだ。カモにはもうちょっとと働いてほしいと思うよ、エサ代分くらいね。夜は、イタチなどに襲われないよう、毎日小屋に入れるんだけど、自分から大人しく入るんですよ。やつぱりかわいいよね。エサをあげるからカモされませんがね(笑)

化学肥料を一切使わず、他の水田の土壌の混入を防ぐため器具の使用方法も細かく取り決められていて、厳密に栽培をしなければなりません。

これほどの手間をかけるのも、3代前の先祖がこの地を切り拓き、今まで受け継がれた水田を、自分の代で耕作すると大きなドジョウが眠っていたこともありましたよ。今は父の手を借りることも多いから。化学肥料を使わない水田なので、冬に耕作すると大きなドジョウが眠っていたこともあります。

化学肥料を一切使わず、他の水田の土壌の混入を防ぐため器具の使用方法も細かく取り決められていて、厳密に栽培をしなければなりません。

Agril Museum Project



ピアスと長髪に、そんなにこだわりはないですよ。高校の時からです。学校ではちゃんとピアス外していましたし、真面目な生徒でしたよ(笑)まあ、首都圏のイベントでは人が近寄ってきませんね(笑)

やっぱり米の専業農家として気になるのは、「米離れ」。日本には米の加工品が少ないからじゃないかと思うんです。だからこそやりたいことは、米の加工品の商品開発なんですね。ぐるぐるノーカーズとしてイベントにフードメニューを出店することがあるんですが、メニューの試作をしながら、みんなとそんな話をするんですよ。

自分が農家を継いだのは、二十七歳のときです。周りはじつにばつちやんばかりだし、震災直後だし、もうどうなるの?って感じでしたよ(笑)けど三十歳を越えてくると、徐々に同年代の農家も出てきて横の繋がりも出てきて今は楽しくやってますよ。

農家を継ぐまで自動車整備士をしていました。農機具って、自動車より簡単な構造だから、こまめなメンテナンスが長持ちさせる秘訣なんですね。周りの農家からも農機具の

ことでしょっちゅう呼び出しがかかるようになつてきて「俺も忙しいんだけどなあ」と思うんですけどね(笑)必要とされている感じはうれしいもんなんです。地域で助け合う中の、俺も一員なんだなって。あんまり地域の事とか、考えた行動は正直していません。けど、自分が農業や仲間と矢吹で楽しんでいれば、そこに人は集まつて来るんじゃないかと思います。自分はそんな人達と繋がりを持つて、視野を広げたいですね。

## YABUKI FRONTIERS TALK 04

### 地域に必要とされるのはうれしい

**YABUKI FRONTIERS**  
藤井 貴之さん

**Takayuki Fujii**



若者の顔が見えるような田んぼを作りたい

**YABUKI FRONTIERS**  
角田 誠義さん

**YABUKI FRONTIERS TALK**  
**03**



息子の将来は、自分で決めればいいと思っていますが、機械好きなんです。コンバインに乗りたがるんですよ。父と私と息子が田んぼでいられる今の時間が幸せですね。

誠義さんのお父様 誠一郎さん「この田んぼは隈戸川沿いにあり、川の水を使った昔からの「旧田」です。度々氾濫がありましたが、それで流れてきた栄養分で、米作りが昔からできました」

長男なんぞ、子どもの頃から家の米作りを継ぐことは自然なことでした。サラリーマンをしていましたが、震災後に専業農家として家を継ぐことにしました。父一人で米を作っていますが、あまり親子で会話はありませんよ。やっぱり気恥ずかしいもんです(笑)けど米作りを始めると、父が積み重ねてきた仕事が、少し分かるようになつきました。

矢吹の若手農家の集団「ぐるぐるノーカーズ」に参加しています。ぐるぐるノーカーズでは、矢吹産農産物の魅力を発信するために、イベントで農産物の直売をしている活動を通じて、都会のお客さんの意見もそろですが、矢吹の仲間たちからも刺激を受けています。そんな中で自分なりに考えている夢があります。どの地域もそうですが、農家の高齢化が進んでいて、将来は地域の水田を若手農家と一緒に集約して、休耕田も含めて管理でなければと思っています。地元の若手に限らず、東京など都市からも農業を志す若者がきてくれれば、うれしいです。

またグリーンツーリズムで、都市の方とさらに交流が広がれば、なんて考えています。私は冬場には酒蔵で蔵人として働いているんで、自分の酒米で仕込んだ酒も造つてみたいです。都市から来た方と酒を酌み交わしながら、米作りの話ができる最高ですね。



## 「矢吹米」をぜひ、ご堪能ください！

ご紹介した「矢吹米」をご自宅でいかがでしょうか？

お米の歴史や農家さんの想いを感じながら、ぜひご堪能ください。

### 矢吹米取扱店

JA東西しらかわ  
みりょく満点物語 矢吹店

☎ 0248-42-4143

福島県西白河郡矢吹町八幡町643

営業時間／8:30～18:00

定休日／毎月第3火曜日

<http://touzai7.com/miryoku-manten>

お求めの方は下記店舗へ、お電話にてご注文ください。

(株)白河フーズ

☎ 0248-31-1122

福島県白河市弥次郎塙29-1

営業時間／9:00～17:00

定休日／土・日曜日・祝日

<http://www.shirakawa-foods.co.jp>

ご注文の際は、  
「矢吹町のお米を購入したい」と  
お伝えください。

### (有)中央商事

☎ 0248-45-2306

福島県西白河郡矢吹町沢尻105-2

営業時間／8:00～17:00

定休日／日曜日

食彩 廚のぎ

☎ 0248-42-3008

福島県西白河郡矢吹町本町12

営業時間／11:00～14:00

定休日／土・日曜日・祝日

ぜひ一度、  
「矢吹米」を食べてみて  
ください！

### 農家直売



福島★矢吹  
やぶきぐるぐるノーカーズ

矢吹町の若手農家集団「やぶきぐるぐるノーカーズ」が直接販売!  
ご希望の方はメールにてご注文ください。

ご注文はコチラまで ➔ [yabukiguruguru@gmail.com](mailto:yabukiguruguru@gmail.com)

facebook. も見てね! ➔ <https://www.facebook.com/Yabukiguruguru>



## 矢吹町情報発信中!



イベントやお店、観光案内など、矢吹町の魅力を発信しています!  
各ホームページをぜひご覧ください。



◎矢吹町公式ホームページ  
<http://www.town.yabuki.fukushima.jp>

◎facebookページ 開拓の町 矢吹 検索 ➔  
<https://www.facebook.com/yabuki.town>

◎日本三大開拓地「矢吹町」特設ページ  
<http://yabukikaitaku.com>



矢吹米を  
食べるならココ！

## 矢吹「米」の おいしい グルメスポット



食彩 廚のぎ

手作り・できたての「温かさ」「味」そして「リーズナブル」にこだわった町の定食屋さん。地元の野菜をたっぷり使ったメニューが多く、日替わりセットも充実。お米は知り合いの信頼できる農家さんから仕入れるこだわりです。毎日来ても飽きないお店です。

**data**  
福島県西白河郡矢吹町本町12  
☎ 0248-42-3008  
営業時間／11:00～14:00  
(食材が無くなり次第終了)  
定休日／土・日曜日・祝日



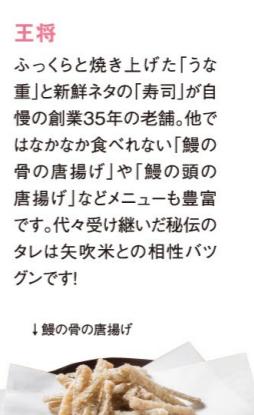
大正ロマンの館

大正9年に建てられた洋風建築をリニューアルし、2016年11月にグランドオープンした「大正ロマンの館」。1Fは矢吹のお米をはじめ、地元の食材を使用した、体に優しいメニューがそろうカフェ。ランチメニューは週替わりで楽しめます! 2Fは学習室・貸会議室と、地域のコミュニティとしての役割も持つ。

**data**  
福島県西白河郡矢吹町本町161-7  
☎ 0248-21-8883  
営業時間／10:00～19:00(カフェ)  
9:00～19:00(学習室・会議室)  
定休日／火曜日



**data**  
福島県西白河郡矢吹町一本木16-2 ☎ 0248-44-3223  
営業時間／11:00～13:30／16:00～22:00  
定休日／水曜日(祝日は21:00まで)  
※水曜日が祝日の時は翌日が休み



**菊寿司**  
地元だけでなく、遠方の常連さんも多い寿司店。女将さん一人で切り盛りしており、優しい人柄と、安い・新鮮・旨いお寿司が人気の秘密です。オススメはボリューム満点のちらし寿司。昼から夜まで笑い声が絶えない、地元に愛される名店です。

**data**  
福島県西白河郡矢吹町  
中町300  
☎ 0248-42-2321  
定休日／年中無休

※お客様に合わせて営業時間を決めています。また、不在の時もあるため、事前に連絡するごとをおすすめします。

# TRAVEL IN YABUKI

THE THREE GREATEST FRONTIER  
OF JAPAN  
日本三大開拓地「矢吹町」

vol.02

編集発行／矢吹町 アグリミュージアムプロジェクト実行委員会 〒969-0296 福島県西白河郡矢吹町一本木101 http://www.townyabuki.fukushima.jp 平成28年(2016年)12月23日発行



## フロンティア絶好調! ようこそ!日本三大開拓地、矢吹町へ。

日本三大開拓地と呼ばれる成功を収めた矢吹町には、

今でもフロンティアスピリットが広く息づいています。

自分の試したいこと、やりたいこと、成し遂げたいことがあつたら

その夢や野望を矢吹町で開拓してみませんか。

若くて元気なフロンティア達の未来を、矢吹町は応援します。



### わたしたちは矢吹フロンティアーズです! 町民一人ひとりが“プレーヤー”として、矢吹町をPRしていきます。

矢吹フロンティアーズとは、野球チームをモチーフに、町民がプレーヤーとなり、矢吹町の農産物・特産物・観光・移住者支援などをPRしていく活動です。名誉町民の中畑清さんには矢吹フロンティアーズの監督（PR大使）を務めていただくことになり、今後さまざまな活動を行っていきます。合言葉は「フロンティア絶好調!」

